

新教育プログラム【柱2】論理的な思考で道筋くっきりプログラム ～思考ツール・表現モデルの活用～

「**論理的思考力**」は、道理や筋道に則って思考を巡らせて結論を導いたり、複雑な事柄を分かりやすく説明したりできる能力としてとらえられます。

思考 → 表現

○思考ツールとは

子どもたちの思考を見えるようにし、思考することを助けてくれる便利な道具

○表現モデルとは

子どもたちが学びに向かっているときに表出される言葉

○「思考する」ってどういうこと？

「思考すること」と言っても抽象的で曖昧になりやすいため、思考するための技法（思考スキル）として、具体的に指導していきます。

思考するための技法（思考スキル）

- ①順序付ける ②比較する ③分類する ④関連付ける ⑤多面的・多角的にみる
⑥理由づける ⑦見通す ⑧具体化する ⑨抽象化する ⑩構造化する

○なぜ「思考ツール」を使うの？

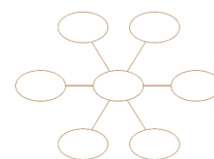
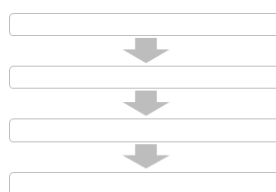
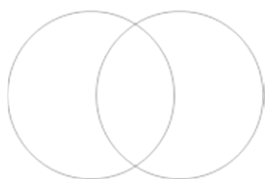
「思考ツール」の2つの特性

①情報(知識)の可視化

- ・理解している知識を客観的に見ることができる。
- ・互いに発した情報を比較したり、関連付けたりして考え、他者に伝えることができる。
- ・音声言語では難しいが、情報をみえる形にすれば参加できる。

②情報(知識)の操作化

- ・知識を自由自在に動かしたり、書き直したりして操作できる。
- ・知識を動かしたり修正したりしやすいため、振り返り、まとめることができる。



○「表現モデル」を意識した授業とは？

授業者は子どもたちの「つぶやき」「発言」「発表」「説明」「まとめ」などの中に、『表現モデル』が表れるような課題や発問などを、意図的に工夫した授業づくりを展開していきます。

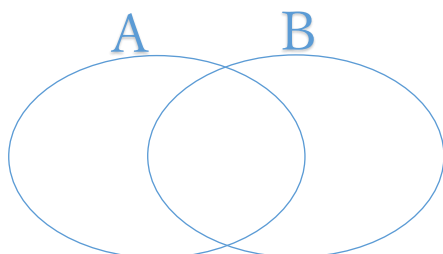
そこで、子どもの「問い」（問題意識）や「思考」を見取るための1つの指標として活用するとともに、課題づくり等、授業を構想していく際の参考にします。

表現モデル

分類	子どもから表出される言葉
疑問	・何で？ ・どうして？
順序	・まず ・次に
比較	・くらべると ・にているよ ・同じだ ・ちがう
原因・理由・根拠	・だって ・なぜかというと
推量	・たぶん ・きっと
置換・抽出・具体化	・たとえば
仮定	・もし、〇〇だったら
要約・抽象化	・つまり ・まとめると
推測	・〇〇ということは
検討・活用	・〇〇が使えないかな？〇〇を変えてみたら？
展開	・だったら、〇〇の場合ではどうかな？

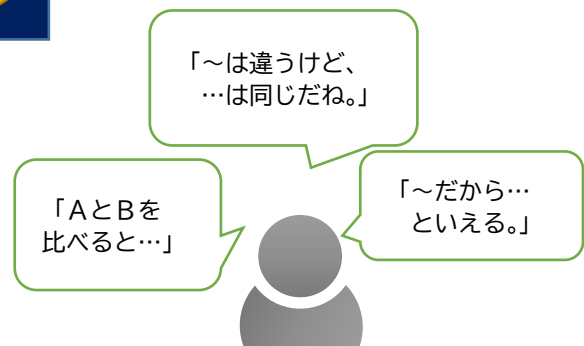


思考ツールと表現モデルの活用イメージ



ベン図

思考ツール



表現モデル